

### ①WiFi でスマート本体に接続する

- 1 スマートの電源を入れ、画面に表示されているUtilityScanアプリアイコンをタップしてください。
- 2 起動すると右記下画面が表示されます。これは5台のスマートが通信している画面の例です。それぞれ検出されたスマートは3つのゼロに続くシリアル番号で表示されています。
- 3 操作するスマートをタップし、その後CONNECT(接続)をタップしてください。数秒後に通信が確立されユーティリティスキャンの主メニュー画面が表示されます。



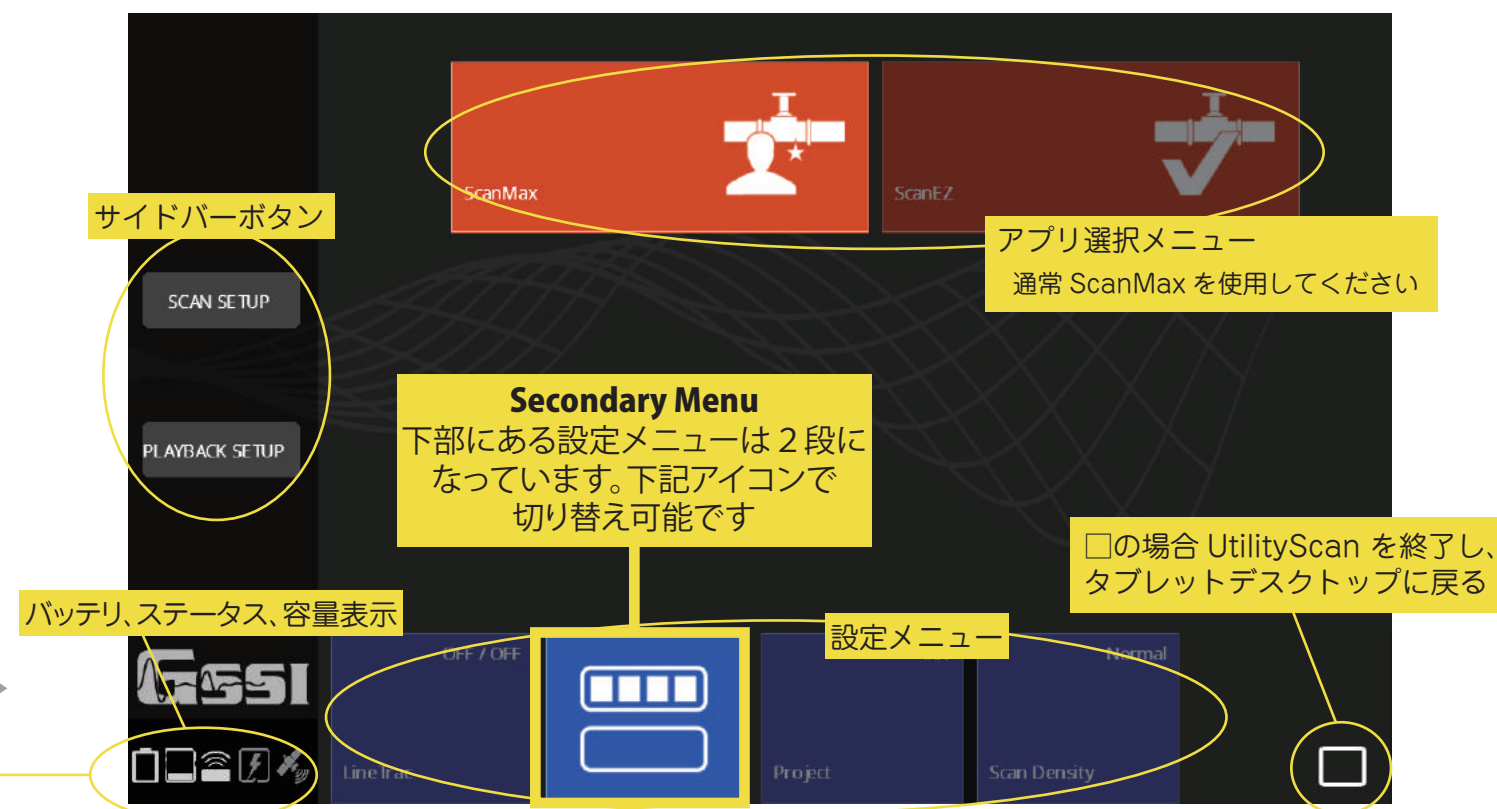
**【注意】**UtilityScanアプリは最後にWiFi 接続したアンテナを覚えています。次回アプリを開くとき、スマートが同じであれば自動的に接続します。自動接続終了後メインメニュー画面に進むまでは何も触らないでください。もし複数のスマートを所有している場合は、全てのスマートの電源を入れて一台ずつWiFi接続してください。接続が完了すると、通信中のタブレットとの通信を切断しない限り、他のタブレットに接続することはありません。

スマート本体とタブレットが接続されると白くなります



- アプリ内左下に表示されているアイコンの説明  
左から
- 1) アンテナのバッテリー電源
  - 2) タブレットの保存容量
  - 3) アンテナの接続 (白は接続、灰色は未接続)
  - 4) ライントラックモジュール (白はオン、灰色はオフ、X は不具合あり)
  - 5) GPS ステータス

### ②メインメニュー画面



サイドバーボタン

アプリ選択メニュー  
通常 ScanMax を使用してください

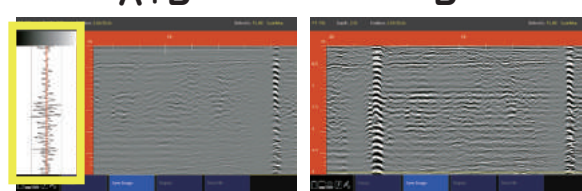
**Secondary Menu**  
下部にある設定メニューは 2 段になっています。下記アイコンで切り替え可能です

バッテリー、ステータス、容量表示

設定メニュー

□の場合 UtilityScan を終了し、タブレットデスクトップに戻る

### ③メインメニュー下部設定項目(必要設定項目のみ紹介・ScanMaxモード)


- 001 Project (プロジェクト)**  
データを保存先フォルダを選択可能です。1から6まで選択可能。
- OFF/OFF LineTrac (ライントラック)**  
活電線探査の際に使用します。詳細は取扱説明書をご覧ください。
- OFF/OFF Save Prompt (保存プロンプト)**  
データを保存するかどうか確認画面を表示するかどうかの切り替えが可能です。通常はOnにして、必要なデータのみ保存するのを推奨しています。
- A+B Display (表示)**  
Aモード波形を表示するかどうか選択可能です。  

- metric Set Units (単位の設定)**  
メートル単位を設定します。(インチ単位も選択可能)

※メニューが見つからない場合は右記アイコンをタッチしてメニューの2段目も確認してください



上記設定ができましたら左側にある **SCAN SETUP** をタッチして進みます

### ④SCAN SETUP(必要設定項目のみ紹介・ScanMaxモード)

- 3m Depth (深度)**  
深度レンジを選択可能です。1m~10m(1m単位)から選択。
- 10.00 Dielectric (比誘電率)**  
探査する面の比誘電率を設定します。
- 1 Color Table (カラーテーブル)**  
波形の配色を変更可能です。通常は1  左黒右白を設定。

上記設定ができましたら左側にある **COLLECT** をタッチして進みます **裏面へ**  
COLLECT をタッチするとすぐに探査開始画面に移ります

#### 探査開始前に...

- ・ 図面で埋設管の位置・深度を確認する。ただし図面と実際は不一致の場合が多い。
  - ・ マンホール、水道等メーターボックス、グレーチング、側溝等、埋設管の情報が得られる箇所では、できるだけ開放し、埋設管の種類、素材、向き、深度、本数、径、充填物(水、ガス等)と充填状況(満水か否か)を確認する。
  - ・ 空中から地中につながるパイプから、その埋設管の種類、素材、向き、本数、径、充填物(水、ガス等)と充填状況(満水か否か)を確認する
- また電磁波レーダ探査では、ターゲットから90度の角度で横切るように探査すると波形が最も分かりやすくなります。探査側線はいつでも90度でターゲットを横切るようにしてください。





### ⑤ 探査画面

右のデータ収録画面が表示されたら、カートを押してください。スマートは、一番初めに動かす方向を前進として検出し、初めに動いた方向でデータの収録を開始します。

スマートを前進させ続けると、画面がスクロールしデータ収集を行います。前進時だけデータを収録します。停止させると、データ収集は行われません。

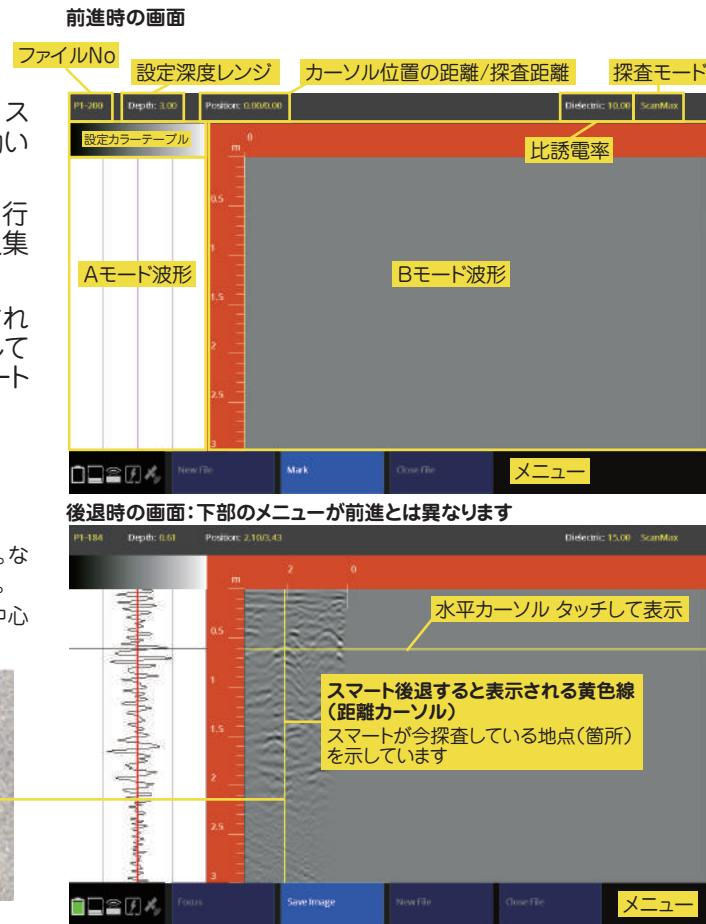
スマートを後退すると右記下の画面になります。後退時に表示される黄色線(距離カーソル)は今探査している地点(箇所)を示しています。そのため前進波形のピークに合わせれば、スマート本体の位置に埋設物があるということです。

#### マーク方法

- ①黄色線(距離カーソル)が山形波形のピークになるまでスマート本体を後退
- ②スマート本体左右にある中心位置(溝)にチェックを入れる
- ③さらに装置本体を後進させ、本体中央位置に埋設管位置をマーク(×印)する。なお周辺に複数本の埋設管がある場合は、この際に概略深度を読み取り記入する。  
※埋設管は斜めに入っている可能性があるため、マークする位置は必ず機器中心位置とする



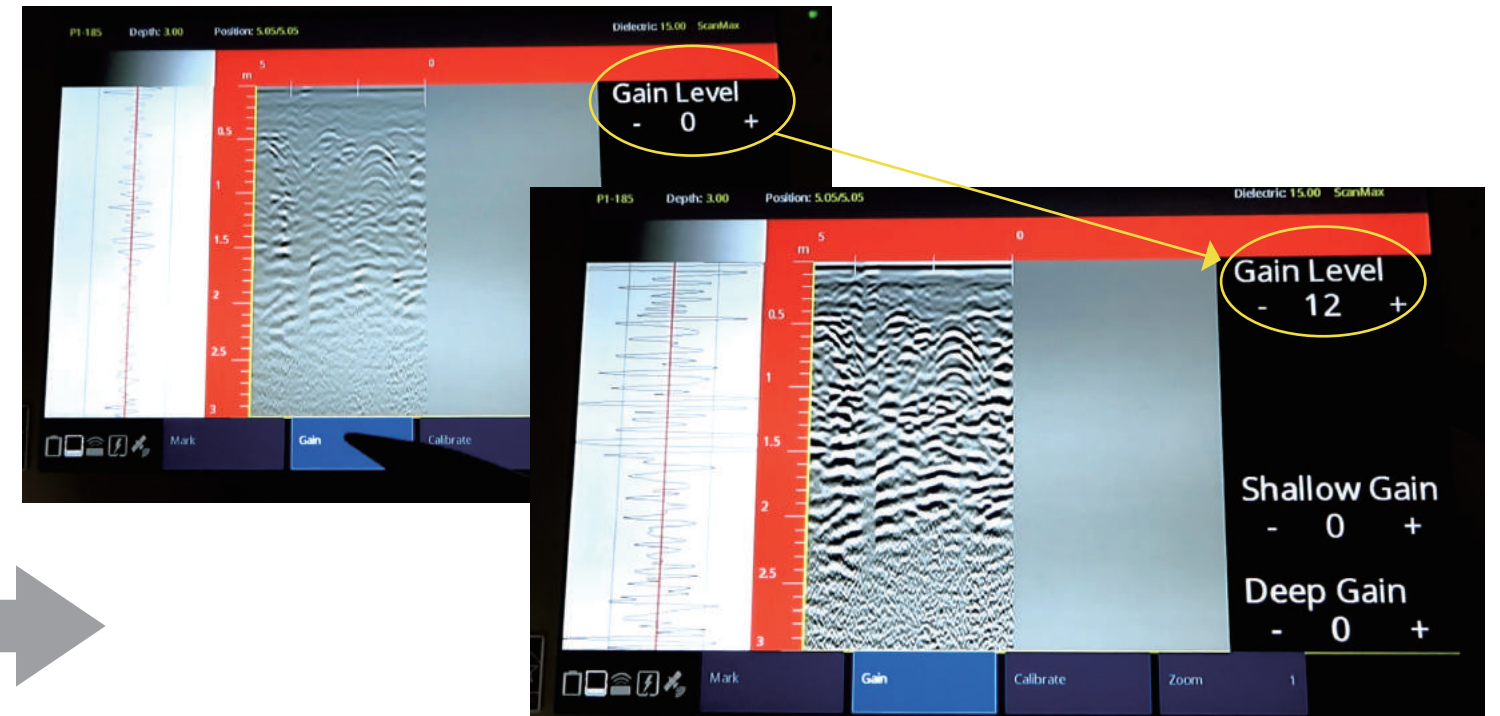
探査終了時はClose Fileを選んでデータ保存するかどうか選んで終了してください。



### ⑥ Gain(ゲイン調整機能)

Gain 探査中後退時または再生画面で設定可能

Gain Level(全体のゲインレベル)、Shallow Gain(浅層箇所のゲインレベル)、Deep gain(深層箇所のゲインレベル)を±12で設定可能です。



### ⑥ データ再生方法、エクスポート方法

①再生を行いたいデータが入っているプロジェクトを選択、またその他Display(Aモード)表示や設定項目を設定後、PLAYBACK SETUPをタッチして進み、FILESをタッチし保存データ一覧を表示させます。

